



講演会、総会を終えて

会長 市原美幸

梅雨が早々と行き去り、猛暑の襲来で身体も気分も追いつかないまま、天候も世間も「まさか」と思わせるような事態の上に、新型コロナウイルス感染第7波の動向にも目が離せません。そのような中でも、ふと、心和むことに目を向けて何とかバランスが保たれているような気がします。皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

6月26日も記録的な猛暑日でしたが講演会、総会を会場とオンラインにより滞りなく開催することが出来ましたので、ご報告いたします。



講演会 若年世代のがん



第56回目の講演会は、東京都多摩総合医療センター(令和4年6月時点)産婦人科 高原 めぐみ医員をお迎えし、「みんなで知ろう 思春期若年世代のがん～AYA世代のがんについて～」と題して、AYA世代とは?またAYA世代のがんの現状や課題について症例と共に、分かり易くご講演を頂きました。

AYA世代の10歳代では罹患率が低く治療成績の改善が十分でない事、がん対策に対して取り残された世代であった等の問題を抱える一方で、小児がんのケースは、治療終了後にも長期的なフォローアップのための定期的な通院や検査が続きます。AYA世代のどの年齢で罹患しても様々なライフステージとライフイベントが交錯しており、学業、就労、結婚、妊孕性、遺伝性への不安、子育て等々、其々の専門的なサポートや行政の支援が必要である等、多岐に渡る課題があることを学びました。

当会でも、今回の講演会で得られた情報をもとにAYA世代のがんについても関心を持ち続け、情報発信を続けていく必要があることを確認いたしました。

定期総会

第21回総会では、議事次第に沿って執り行い、会場とオンライン参加者数と委任状の返信により、半数以上の承認を賜りましたのでご報告申し上げます。

当日、ご来場、オンラインでご参加いただいた会員の皆様、そしてコロナ禍や猛暑により外出を控えておられた方や体調不良やご都合が合わずご参加できなかった会員の皆様や患者会の皆様には総会の承認と共に、暖かい励ましのお言葉を頂戴し、心より感謝を申し上げます。

講演会の途中から急遽ご来場いただきました顧問の芝祐信先生から、講演会と総会のしめくりにご挨拶を頂戴しました。

会の活動に対しての励ましと共に、皆さんが、がんについてもっと気軽に、身近にとらえて知ることが出来ればとのアドバイスも頂きました。

「2人に1人ががんに罹る」というフレーズは今では合言葉のように話題に上がりますが、まだまだ糖尿病等の慢性疾患とは違う格付けにあるのではないのでしょうか。

がんがもっと予防でき、早期発見や治療が身近に、気軽に受けられる日が来ることを願いつつ、今年度も活動を続けてまいりたいと思います。

顧問の芝祐信先生は令和4年4月1日から、公益社団法人東京都保健医療公社荏原病院 院長に就任され、7月1日より、病院名が変わり、地方独立行政法人東京都立病院機構東京都立荏原病院 院長です。(第4号議案役員欄、訂正をお願いします)

益々ご多忙であるにもかかわらず、当会の活動にご理解いただき、顧問を本年度もお受け頂きました事に大変心強く思いますと共に、心より感謝を申し上げます。

末筆ではありますが、21回目の総会を迎えることが出来たのは、当会を支えて下さる会員の皆様のご支援、ご協力のおかげです。

引き続き、当会の運営に関心、協力、ご支援を賜りますことを心よりお願い申し上げます。



21回定期総会報告

6月26日、第21回定期総会が開催されました。一昨年の19回はコロナのため中止、昨年からはオンライン参加も含め開催しています。



2時ちょうど、宮田さんの司会により講演会を開始しました。市原会長のあいさつの後、多摩総合医療センターの高原めぐみ先生のお話をお伺いしました。(詳細



別掲)

講演後、3時45分より総会を開会、市原会長が窪田役員を議長に推薦し、了承されました。窪田役員により開会の宣言と出席者の確認が行われました。本年4月1日の会員数は57名の内、出席者は17名(うち2名はオンライン)、委任状は16通で総会が成立していることが確認されました。



1号議案(事業報告)は宮田さん、2、7号議案(決算予算関連)宇田さん、会計監査は稲津さん、4号議案は市原さん、5、6号議案(事業方針、活動計画)は武智さんによって報告され、すべてに了承をいただきました。



最後に都立荏原病院院長 芝祐信先生のご挨拶をいただき、無事総会を終了することができました。

講演会報告

「みんなで知ろう思春期若年世代のがん～AYA 世代のがんについて～」

宮田乃有

2022年6月26日(日)14:00～15:30 プラッツ第2会議室にて、東京都立多摩総合医療センター産婦人科 高原めぐみ 医員を講師にお招きし、上記講演会を開催しました。参加者は会場が8名+役員8名、オンライン参加者が9名でした。

AYA 世代とは

「AYA 世代」という言葉は、初めて聞いたという方が多いのではないのでしょうか。高原先生からは、AYA (アヤ) 世代について「Adolescent & Young Adult (思春期・若年成人)の頭文字をとったもので、主に思春期(15歳～)から39歳までの世代を指している」と説明がありました。

また、AYA 世代のがんの治療について、治療成績の改善が十分でないこと、がん対策において取り残された世代であること、教育・就職や心理・社会的な側面などに特別な配慮が必要であるという問題点を指摘されていました。



AYA 世代のがんの種類は稀なものが多く、専門医による治療を受けるために遠方の病院で治療が必要になることがあります。治療終了後も、10年といった長期的なフォローアップのための定期的な通院や検査が必要です。

AYA 世代のがんでは、学業への影響が大きいことも課題です。院内学級は義務教育である小中学校しかなく、高校生や大学生は治療のために休学が必要となり、退学を選ぶ場合もあるとのことでした。オンラインでの授業参加や単位認定が可能なこともあるそうですが、もっと多様な形で子どもや若い世代の患者が学ぶ機会を保障できるようにしていく必要があると感じました。

また、若い故に医療費にける貯金が十分でないなかで休職する必要になり、経済的な課題も指摘されていました。就労については、「がんと仕事の Q&A 第3版」(がん情報サービス <https://ganjoho.jp/public/institution/qa/index.html>)という冊子の紹介がありました。

若年がんの特徴的問題

子どもや若い世代のがんでは、治療によって「妊孕性(にんようせい):妊娠するための力」にも影響が出ること考える必要がある場合もあります。将来子どもをもつことを考えて、事前に卵子や精子を凍結保存するなどの手段を講じておくかどうか、そのために治療開始を待つ時間的余裕があるかどうかなどが課題となります。妊娠中や子育て中にながのなが治療が必要となった場合も、治療と分娩をどうするか、兄弟にどのように説明するか、行政の育児支援などさまざまなサポートが必要です。

AYA 世代のがんのなかには、遺伝性のももあります。関連する遺伝子をもっている、全員ががんを発症するわけではないため、正しく理解し、早期の検診を受けることが重要とおっしゃっていました。

講演のなかではいくつかの事例もご紹介いただきました。AYA 世代のがんには特有の課題があり、治療やさまざまな選択肢についての理解と意思決定、家族とのコミュニケーションについての支援などが必要で、職場等、社会が理解を深めていく必要があることを学びました。高原先生、ありがとうございました。

会場の声、アンケートより

6月26日に行なわれた講演会と総会について、参加者や会員の方からお声をいただきましたので、ご紹介いたします。

講演会では、AYA世代のがん患者をテーマに多磨総合医療センター産婦人科の高原めぐみ医員にお話しいただきました。参加者からは、このテーマに元々関心があつて参加された方がおり、大変勉強になったとの感想をいただきました。同時に、講演の中で「妊よう性」について気づかなかつた事もあり、参考になったとの声もありました。

今回のテーマは、会員の方からいただいた声の中に、AYA世代のがん患者の問題について指摘された方がいらつやいました。そうした点を踏まえて、今回の講演会のテーマにつながりました。当会としても対象となる患者の数が少ないこともあり、社会的なセーフティネットが非常に脆弱である点は問題だと考えております。誰も取り残さない社会に向けて今後とも取り組んで参ります。

「初めて参加しましたが、良い会でした。知るべき事を、知るべき人にもっと届けたいといけない」というお声をいただきました。ご指摘の通りだと思います。今後とも若い方々にも関心を持っていただき、また医療従事者や公的機関で働く方々にも知ってもらうよう働きかけて参ります。また、「今日の話の内容はわかりやすい内容でしたが、早口だったので、もう少しゆっくり話をしてもらえればと思いました」という声もありましたので、今後の参考にさせていただきたく存じます。

がんケアについて知りたいことの質問には、「新しいがん治療」との回答がありました。日進月歩で医療の治療方法が進んでいますが、部位別でも様々です。標準治療を軸に、最新の情報提供ができるように心がけて取り組んで参ります。

府中がんケアを考える会に望む事について、お聞きしたところ、「長く続けてほしい」「これからも興味のある議題があれば参加したいと思います」という声をいただきました。役員一同、これからも継続して取り組んで参りますが、会の運営には会員の皆様のご協力も必要となります。皆様方には、できる範囲で一緒に考え活動を進めるよう、ご協力をお願い致します。また、「できれば、ガン以外の事もテーマにしてもらえればと思います」という回答もありましたが、この会の趣旨を踏まえると「がんケア」は、必須のテーマとなりますので、何卒ご理解いただきたく存じます。

講演会に参加された方々やアンケートにお答えいただいた方々に、心より感謝と御礼を申し上げます。

文責：稲津

会計よりのお願い

振込用紙を同封しています。未納の方よろしくお願ひします。ご体調等で退会なさいます方はご連絡いただけると幸いです。

2022年の予定

予定変更、中止になる可能性があります。いずれの催しも当面参加人数に制限があります。できる限り事前の確認、参加予約をお願いします。

日時	行事	会場
7月24日(日)	患者会	プラッツ 第7A会議室
9月25日(日)	患者会	プラッツ 第7A会議室
11月23日(水・祝)	講演会	プラッツ 第3会議室

編集後記

電動歯ブラシの振動で歯が抜けました。かなり情けなかつたですが、いい歯医者に巡り合いました。初診2時間、治療1時間。歯周病の治療中です。暑いです。タンパク質の補充のためプロテインドリンク飲んでます。

発行 府中がんケアを考える会・会報編集部

連絡先 183-0053 府中市天神町3-7-47 武智 一雄
電話 090-7729-4429 Mail: ktakechi@fuchugancare.org